

イラク・クルド地域に入る

今年 5 月からイラクのクルド地域に入る機会を得た。クルド地域へは、ヨーロッパから直行便で入るのが、便利が良いようだが、最近では湾岸から入る便もある。訪問中、クルド地域を広く訪問することができ、色々見分を広めることが出来たので紹介する。一般的に、治安が悪いとおもわれがちなクルド地域であるが、今回の訪問では全く不安を感じることなく滞在することができた。これも調査から日常生活まで警護にあたってくれた警備員の努力であり、彼らには感謝したい。滞在の中心地はクルド自治政府の首都エルビル、予想に反して大都市である。広大なエルビル市の中に、高速道路の整備が進み、新しいホテルやショッピング街が次々に建設されている。イラクで最初にできた欧米風のショッピングモールも Dohuk(クルド地区北部)にあった。

現在のイラク国内でクルド人の自治が認められているのはイラク最北部 3 県(Erbil, Suleimania, Dohuk)で、人口は 600 万人程度(推定値しかない)といわれ、ほとんどがクルド人である。北部にいくほど急峻な山岳地帯となり、南部はゆるやかな平原となっている。現在、クルド自治政府には大幅な自治が認められており、イラク中央政府からはほとんど完全に独立した行政機関を確立し、独自の戦後復興に努めている(これには中央政府の反発もあるようだが)。農業もその一つだ。クルド地域はイラク国内においては比較的降雨に恵まれており、小麦や豆類などを中心に広く栽培され、最近では野菜の栽培にも力を入れている。また、山岳部ではクルミ、アンズ、リンゴなどの果樹栽培も盛んである。畜産ではヤギやヒツジを中心に行われている。



畦間灌漑による
野菜栽培



山岳地域での
野菜・果樹栽培

かつて、クルド地域はイラクの作物生産の大産地であったと聞いた。それが内戦、難民流出などにより、農業生産は大打撃を受け、いまでも回復していない。前述のように、小麦生産は農業の中心であるが、灌漑施設のある耕地は少なく、降雨依存の栽培であるため、生産量の年変動も大きい。また、生産が拡大している野菜も近隣諸国からの安い農産物の輸入もあり、農民は十分な農業収入をあげていないようだが、私が聞く限りこのことを農民はあっけらかんと言う。クルド地域では住民全員に小麦の無償提供を続けており、またいざとなれば軍隊業務で現金収入を得ることができ、農業収入の不安定さをそれほど真剣に悩んでいるようには感じられない。もしくは、これまで我々が体験することが出来ないような苦悩の中で生きてきたクルド人の「忍耐強さ」なのだろうか、「たかがこれくらいの困難」と、気にもしないように思える。

ご存知のように、クルド人は単一民族で 2500 万人以上の人口をもっているが、国家をもたない民族である。歴史的にも多くの弾圧・苦難を味わってきた。そんな中でも、クルド人は明るく我々を迎え、温かく歓迎してくれた。また、歴史的遺跡、風光明媚な場所などを各地で見ることが出来る。おいしいシャワルマ(薄切りした肉を香辛料等で味付けし、それを鉄棒に刺し重ね、回転させながら焼けた肉からそぎ落とし、パンと食べる。)やローカル食を味わうことができる。早くイラク国内の治安が回復し、観光で自由に歩ける日が来てほしいものだ。ところで、石油の力であろうか、クルド地域訪問でちょっと驚いたのは、湾岸諸国と同様にフィリピン、スリランカ、インド人風の多くの一般労働者が働いていたことである。どうして自国民でできないのかちょっと気になることであった。

< 2010 年財津 >



エルビル市街地



町のシャワルマ屋

注: 本文でいうクルド地域とは今回訪問したクルド自治政府管轄下の 3 県に限定している。